

AOI 通信

静岡音楽館倶楽部情報誌
March 2008 No.49

I N D E X

インタビュー:池辺晋一郎 映画音楽の世界

この1曲:P.I.チャイコフスキー
交響曲第6番《悲愴》口短調 op.74・・・間宮芳生

AOI Concert Information

音楽都市紀行「ハバナ」・・・福田進一

fresh VOICE: 榎本大進

[榎本大進+コンスタンチン・リフシツ デュオ・リサイタル]





Q…演劇や映画では、場面^{シーン}に合わせて細かく時間が決められていたり、楽器編成の制限があったりしますが、一定の条件下で音楽を作るのは難しくないですか？

A…小さい頃から演劇が好きで、といっても僕の子どもの時代は劇場で舞台を観る機会が稀で、専ら戯曲を読んでいました。高校生になる頃、都民劇場という演劇鑑賞サークルの会員になり、芝居を見歩きましたが、自分が将来演劇のための音楽を書く、ましてや書くなんていうことは全く考えもせず、芝居が好きで見ていただけで……。その延長で映画も好きになり、よく観ていました。ただ演劇的なものがとても好きだったのだと思います。→

後に武満さんのお手伝いをするようになって推薦してくれた理由を訊ねると、「FMラジオで聴いた僕の作品がいいと思ったから」という理由でした。「それだけで人を推薦するかな〜」とびつくりしました。僕だったら、作品を聴いただけで会ったことのない人を推薦はできないですよ。

一緒に仕事を始めたのは、1969年の夏、武満さんから突然電話がかかってきて、「大阪万博（1970年）のパビリオン用の映画音楽を書くので手伝ってください」と依頼されたのがきっかけで呼ばれたその日から徹夜でした。最初の頃は武満さんが書いたピアノ・スケッチ中の「この旋律はオーボエ」という指示に従ってスコアに書いていくんだけど、「一緒にやっていくうちにだんだん『この辺は、森のとき、サワサワサワ……』と書いてあるだけ。すると僕はその感じを木管で動かしてみたりする、ということもありました。作曲の手伝いをしていたのは二十代終わりくらいまでですが、彼の映画音楽の録音は、僕が全部指揮をしています。

Q…実際に撮影現場に行くことは？

A…もちろんあります。映画音楽の作り方は大きく分けると、アフレコ（アフターレコーディング）と、その縛りが逆に面白い。演劇と映画、テレビとは音楽の波及の仕方が異なります。異化効果^{ヘテロ化効果}“といって、全く逆のことをやる場合があります。例えば、主人公が思い悩んでいる暗いシーンで、わざと明るめの音楽をいれると、映画やテレビのように、俳優の撮影が終わっているときには効果的なのですが、演劇では演じている俳優が戸惑ってしまう効果があります。

また演劇では、台詞のスピードが音楽の影響を受けてしまうので、アバウトな範囲で曲を作るけれど、映画やテレビは、びつたりするなど違いがあります。

Q…作曲のやり方として、ひとつの作品に共通するモチーフやメロディーをあらかじめ想定して作曲するのか、それとも、各部分を作っていく過程で最終的に何か共通する

（コーディング）とプレスコ（プレスコーティング）の二種類です。アフレコは、演技の録画や編集などが全て終了し、音以外は全部出来上がっているものに後追いとして音楽をつけていくやり方。プレスコは、映画の中で音に動きがあつていなくてはならないシーンで、事前に音楽を録音し、撮影の時にその音楽を流しながら撮るやり方です。

最新の例では、「バルトの楽園」^{バルトの楽園}で、捕虜の楽団が演奏するシーンの曲を前もって作り、音楽に動きを合わせて撮影しました。



池辺晋一郎（作曲家）
1943年、水戸市生まれ。東京芸大卒業、同大学院修了。66年、日本音楽コンクール第1位受賞後数々の受賞歴を重ねる。作品は、オペラ、交響曲、管弦楽曲、室内楽曲、合唱曲など全般的に渡る。多数の映画・TVドラマ音楽の他、演劇音楽450本以上を担当。横浜みなとみらいホールアドヴァイザーをはじめ、各地のホールの企画に携わる。「N響アワー」にレギュラー出演中。

「演劇や映画の作曲家にどうやったらなれますか？」と聞かれますが、ノウハウはありません。その世界を好きになることと、どれだけ楽しめるか次第だと、思います。

Q…ある感情だったり、その人にまつわることだったりすると繰り返し使った、ライトモチーフのようなものですね。聴いているほうは1週間毎ですから気づかないかもしれないのでは？

A…まさに、ライトモチーフです。音楽は知らないうちに記憶に残っているから、まったく脈絡のないばらばらな音楽を書いてしまふのはまずい。ある人物にある特定の音楽があると聴いているほうも無意識に安心感

芸大では演劇クラブに入ったのですが、役を演じさせてもらえず、音楽を作るように言われました。最初の頃は仕方がなく作曲していましたが、「作曲するために演劇クラブに入ったんじゃない」と部長に訴えたら、「まさか……役者をやる気？」と、一行しか台詞のない「村人③」という役で、本読みの段階で、「下手だから、やっぱり音楽を書いて」と、結局役はもらえず、音楽を書いていた。それでも自分が将来、舞台の音楽を書くことになろうとは思わなかった。

俳優座でピアノを弾くアルバイトをしたことから、プロの劇団と付き合いができて、芝居のための音楽の依頼が来るようになりました。演劇に関わっていたことから映画の仕事も入り、その後テレビの仕事もするようになってきた。好きで演劇や映画に携わっていたので、自然と仕事が入ってくるようになったのだと思います。

Q…武満徹さんと多くお仕事をされていましたが、どういきかけだったのですか？

A…大学院生の時、NHKから、1968年に放送した「明治百年」という番組の音楽を依頼されました。スタッフにどうして僕

ハバナ

福田進一

(ギタリスト、静岡音楽館AOI企画会議委員)



6/12[木]公演
池辺晋一郎が贈る
「映画音楽の愉しみ」
に出演します。軽快な
トークとギターサウンド
をお楽しみください。



いろいろな所で書いたり話したりしてきましたが、私のやっているギタリストは「最も旅の出来る」職業です。実際、世界中に至る所でギター・フェスティバルが存在し、それらは互いにリンクしています。こんな楽器ジャンルは他には見当たりません。ヴァイオリンやピアノだとサルソブルクやバイロイトなどの純然たるクラシック音楽祭というものが存在しますが、そういう音楽祭にギタリストが招待されることなど滅多にない。ギターにはギター弾きの集まるお祭りが世界各地にあつて、クラシックもポピュラーもフラメンコも混然一体となつて盛り上がっています。この現状、一般の音楽界からズレている、あるいは遅れていると解釈する悲観主義ギタリストもいるのですが、私個人は、これこそひとつの楽器が不器用ながらも大変進化した結果の音楽界、いたって結構!と思つてます。おかげさまで80年代後半から、現在は物騒で行く事もままならない中東のイスラエルや、まだ共産主義が支配していた東欧まで、数度のツアーを体験しました。さらに近年ではフィンランドや向かいのリトアニアなどバルト海沿岸の国々にも招待されました。そして、94年に初めてキューバを訪れてからは、頻繁にラテンアメリカ諸国に行くことになったのです。

結局、2004年まで2年に一度、5月に約10日間の日程で開催されていた「ハバナ国際ギターフェスティバル」には5回も続けて参加しました。私にとって、キューバは実に居心地良い国です。何しろ、あらゆる楽器の中でギターが一番威張つていられるのですから。マンボやサルサの流れるホテルのプールサイド

の白いカウチに寝そべつて、ムラータと呼ばれるヒスパニックと黒人のハーフ(つまり女優のハルベリー風の)美人たちの泳ぐ姿を眺めながら、マンゴ・ウツリーの間風を肌に感じつつ、爽やかな後口のラム酒カクテル、ダイキリなんぞ啜つたりしたら!もう!それはこの世のバラダイス。あなた、幸せで失神するかもしれないぞ。私のような無宗教の日本人でも神様に感謝したくなるんですから。しかし、言つておきますけど、けつして良いことづくめでもありません。まず、一般的な食事は不味いです(ガクツ)。香辛料が塩と胡椒以外ほとんどないので、何を食つても同じような味。海があるから美味しい魚は獲れるのだけれど、現金に換えるために輸出しちやうて、河魚で我慢です。唯一、ロフスター(伊勢エビのデカイ奴)はそれなりに美味いけれど、なんか大きいだけで品がないっていうか、大味なんだな。スジっぽいのね。ああ、食事の話ばかりで申し訳ないです。

でも音楽家としては悪いことばかりでもないです!飯は不味いが、毎夜国立劇場やアマデオ・ロルダン音楽院ホールで行われるコンサートでは満場の聴衆が集まり、その反応が素晴らしい。皆で良い演奏をさらに盛り上げようと熱い拍手が沸き起ります。でも、これには、「上手に弾いた場合は…」という但し書きがきますよ。キューバ人の習性で絶対お愛想で拍手なんかしないのです。もしヘタだったりするとどうなるかつて、プーイング?いやいや、どんな席を立て帰つてしまうのです。ある時なんか、たしかベネズエラのポピュラー・グループ、初めは満席だった聴衆の半分が曲間に退場しちやうて、ボーカルの女性にはシヨクで泣き出すわ、もう大変でした。どうしてこうなるかというと、教育、医療、演奏会や展覧会などの文化事業など全部無料だからなんです。国民性が明るいからといって、キューバが社会主義国家であることを決して忘れてはなりません。「タダほど怖いものはない」のですよ。音楽を志す者は国によつて、しっかりと教育されています。だから変な演奏など絶対に出来ない国です。レッスンをするとキューバの音楽学生が実に礼儀正しいのには驚かされます。帰りに「先生、私は今後あなたに教えて頂いたことを守つてしっかり勉強して参ります。次回もいらして下さい。その時は、またよろしく御願ひ致します」。なんて挨拶するんです。今どきの日本やヨーロッパでは絶滅したような学生。でも見た目は、まったく不真面目そうなレゲエ頭の兄ちゃんだから、教える方も面食らつてしまいます。キューバつて本当にギャップ&変化に富んだ楽しい国でした。そういえばカストロが引退表明しましたね。これからのキューバは、どうなっていくのでしょうか?

さて、その後キューバ以外に演奏で訪れた中南米の国々は、サンバの国ブラジル、タンゴの国アルゼンチン、ウルグアイ、様々な舞曲とコヒーの国コロンビア、マリアッチと歌の国メキシコといった感じでしょうか。それぞれの国の音楽に触れながらの旅は実に楽しいものでした。残念ながら紙面が尽きてしまいました。機会があればまた書きましよう。



◀旧ハバナ市街の大聖堂(カテドラル)。ギタリスト作曲家アグスティン・バリオスが同名作品「大聖堂」を着想したことで有名。



▲郷愁のショーロ ラテンアメリカ作品集II (MM-1223) バリオス=マンゴレ作曲「大聖堂」(前奏曲~郷愁)が収録されています。

7/13[日]
シューベルトの午後

ピアノ・ソロ、
弦楽四重奏、五重奏と
3つのシューベルトの楽しみ。

この公演は、いろいろな楽しみ方をご提供します。まず、シューベルトという作曲家に注目。わずか31歳でこの世を去ったシューベルトですが、600曲以上の歌曲の他にも、作品はほぼ全ジャンルに渡っています。そのなかからピアノ・ソロと室内楽の名曲中の名曲を取り上げます。しかも2曲の室内楽曲には、歌曲の旋律が使われていますから、歌のメロディーも楽しめます。

次は演奏家たち。毎年、熱い名演を聴かせてくれるAOI・レジデンス・クワルテット。ピアノの田部京子はAOIのコンサートシリーズには初登場。シューベルトの演奏に定評のある彼女のピアノ・ソロだけではなく、N響首席奏者コントラバスの吉田秀とともにAOI・レジデンス・クワルテットのメンバーと共演する、おなじみの《ます》も楽しみな、贅沢な午後です。

7/23[水]
高橋アキ ピアノ・コレクション
with 田中泯(ダンス)

高橋アキのピアノの真髓。
田中泯とコラボレーション!

ピアニスト高橋アキの魅力がたっぷりのコンサート。AOIの企画会議委員として数々のコンサートを企画、出演してきた彼女ですが、AOIのコンサートシリーズとしては初のピアノ・ソロ・コンサートです。まずはサティの音楽。サティが日本でこれほど親しまれるようになったのは、世界的第一人者といえる彼女のこれまでの活動があったからこそ。そして2年前から本格的に取組みはじめたというシューベルト。遺作、ピアノ・ソナタ第19番をお届けします。昨秋にリリースされた第21番のCDも大好評で、期待が高まります。

そしてコンサートの後半にはさまざまなタンゴをお聴きいただきます。高橋アキの膨大なレパートリーから厳選されたプログラムに、「たそがれ清兵衛」などで俳優としても活躍する田中泯のダンスが、音楽と刺激的な対話をくりひろげます。一期一会のステージ、これは見逃せません。



6/12[木]

プロデュース：福田進一
池辺晋一郎が贈る
「映画音楽の愉しみ」

N響アワーでおなじみの作曲家、
池辺晋一郎が
楽しく映画音楽を紹介。

音楽は好きなんだけど、どういうコンサートに行ってもいいかわからないし、行っても知らない曲ばかりだとさみしい……。あと1歩を踏み出せない方に、ぜひこのコンサートをお勧めします。映画のワンシーンと一緒に記憶に残っているメロディー。聴いたことはあるけど曲名がわからないからCDも探せない……。そんなモヤモヤを池辺晋一郎が晴してくれます。彼は、黒澤明、今村昌平、篠田正浩等日本を代表する映画監督とともに数多くの映画音楽を手がける作曲家。映画に使われたクラシックの名曲や日本の映画音楽を多彩に取り混ぜたプログラムです。映画音楽名曲中の名曲《禁じられた遊び》を福田進一のギターで、「みじかくも美しく燃え」に使われたモーツァルトのピアノ協奏曲を野平一郎のピアノでお聴きください。

6/24[火]

ロシアの音楽Ⅱ
榎本大進+
コンスタンチン・リフシツ
デュオ・リサイタル

天才の出会い!

いまや日本人演奏家が国際コンクールの上位に入賞するのも珍しくない時代に、タイトリストたちは周りの声に惑わされることなく着実に自分の歩む方向性を見出し、更なる成長と発展を遂げています。榎本大進はまさにそういう演奏家の一人。ヴァイオリンはなぜか日本では女性上位? もちろん演奏に男女の区別は関係ないけれど、10余年前、ロン=ティボー優勝後の彼の活躍に期待を込めて、「がんばれ〜」と心の中で声援を送った人も多かったはず! アンケートでも度々リクエストを頂いていた榎本大進が、彼が常に「天才!」と尊敬し敬愛するピアニスト、リフシツと共に初登場。リフシツの故郷ロシアの偉大な作曲家ショスタコーヴィチと、2人が住むドイツの作曲家、ベートーヴェンの《クロイツェル》を、榎本大進の母国・日本で演奏。絶好の機会は聴き逃せない。

春です。気温が上がって花々が咲き、緑が芽吹く季節です。新年度、新学期、春は暖かい空気にさそわれて外に出かけたくなったり、新しいことを始めたくなったりしませんか。コンサートシリーズ2008の幕開けは、AOIのホールを飛び出し、静岡市民文化会館大ホールでのフル・オーケストラ公演。

5/23[金]

ロシアの音楽Ⅰ／オーケストラを聴こう
東京交響楽団
チャイコフスキーのタベ



オール・チャイコフスキー・プログラム。

AOI (618席) のオーケストラ公演では、「完売です……」とうれしい悲鳴をあげることもしばしば。またホールの大さから演奏できるプログラムも限られてしまいます。オーケストラの醍醐味、迫力ある音量! ということで、AOIから飛び出し静岡市民文化会館の大ホールで公演が決定。

オール・チャイコフスキー・プログラムを携えて指揮者・大友直人、東京交響楽団が来静。シェフとレストランの関係に例えられるように、指揮者とオーケストラは、築き上げられたお互いの信頼関係のもと、阿吽の呼吸で指揮者の指揮棒にオケが反応していきます。

チャイコフスキーは日本人が好きな作曲家のランキング上位の常連。オペラ《エウゲニー・オネーギン》の第3幕を開ける華やかな「ボロネーズ」は、コンサートの幕開けにぴったり。ピアノ協奏曲第1番、冒頭のピアノによる和音の跳躍と弦楽器のユニゾンで始まる雄大なメロディーは、一度聴いたら忘れられません。《悲愴》交響曲の初演後1週間 で亡くなってしまったチャイコフスキー。本人は意図していなかったとしても死の直前、作曲家の音楽生命の燃焼が感じられる曲です。



天才のデュオ 榎本大進 & コンスタンチン・リフシツ

ショスタコーヴィチのソナタは前から興味を持っていた作品です。今まで2、3度演奏したことはありますが、念願のコンスタンチンとの共演です。以前、ヨーロッパの公演で彼と演奏する予定だったのですが変更せざるを得ず、いつか必ず!と思っていたのが実現するので本当に楽しみです。今回の選曲で、このヴァイオリン・ソナタを入れることができなかったら、ツアー自体がありえなかったです。偶然、静岡音楽館AOIの「ロシアの音楽」シリーズにもマッチしましたね。

このソナタは、ヴァイオリン作品としては低音域が多いのですが、それは多分オISTRAフのために書いたからだと思います。オISTRAフの低音は本当にすごいので、彼の音を意識した結果ではないか、と思います。オISTRAフの音までには及ばないかもしれませんが、この曲の雰囲気さをなくさないように弾きたいと思っています。

ソナタという伝統的な形式の名前ではありますが、第1楽章と第3楽章はゆっくりとした楽章で、カデンツ^{フィナーレ}もありますから、ショスタコーヴィチがいわゆる形式にとられることなく、またオISTRAフとリヒテルという2人の演奏家のために自由に書いた曲ではないでしょうか。

この曲と一緒にあわせるピアノ曲は、コンスタンチンといろいろ一緒に考えました。ベートーヴェンのソナタも候補に挙がったのですが、軽すぎても重すぎても合わないので、ショスタコーヴィチのピアノ・ソナタになりました。もう1曲のベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタですが、僕自身はショスタコーヴィチとベートーヴェンはとても相性がいいと思っていました。よい意味で、この二人の作曲家は「クレイジー」だった、というか、クレイジー的な作曲をしていると思います。またお互いつらい人生も経験しているところに共通点があるように感じていて、音楽的にも合うんじゃないか、と思っていました。コンスタンチンに提案すると、「ベートーヴェンという選択はすばらしい」と、僕と同じように感じてすぐに同意してくれ、最終的に《クロイツェル》に落ち着きました。大曲3曲になったので、ピアノもヴァイオリンもどちらも大変です。作曲家が書いたものと、自分が感じているもので、こういうものが作り出せるかを毎回毎回100%になるようにトライしています。

ヴァイオリンという楽器のおかげでいろいろな音楽家と出会い、人間的にも音楽的にも成長するきっかけになります。ヴァイオリンを弾いていてよかったな、と思っています。コンスタンチンに負けずにがんばらないと。彼はとてもすばらしいピアニストですから、一緒に演奏できるのは幸せです(談)。



高橋アキ企画会議委員

平成19年度(第58回)

芸術選奨文部科学大臣賞 受賞

高橋委員は、AOIの開館以来、企画者として、ピアニストとしてすばらしいアイデアを有し、充実した演奏の公演を重ねています。2007年9月15日のモートン・フェルドマン:Trio公演は、朝日新聞のコンサート評で高く評価され、「音楽の友」誌のコンサートベストテン2007にも取り上げられました。今回の受賞は、高橋委員の現代音楽の牽引者としての長年の活躍に加え、古典の演奏でもすばらしい成果を出し続けていることが評価されました。昨年秋にリリースされたシューベルトのCDとその演奏、そして前述のフェルドマン:Trio公演の演奏が特筆されたことは、静岡音楽館AOIにとっても大変喜ばしいことです。



Encore!

AOIのコンサートで演奏されたアンコール曲を紹介します

11/11(日) AOI・レジデンス・クワルテット〜ポール・メイエを迎えて
J.ブラームス:クラリネット五重奏曲 短調 op.115 より 第3楽章

1/9(水) ニューイヤー・モーツァルト・ガラ・コンサート
W.A.モーツァルト:歌劇《フィガロの結婚》K.492 より 序曲



2/13(水)
趙静(チェロ)×松本和将(ピアノ)
デュオ・リサイタル
F.ショパン:チェロ・ソナタ 短調 op.65 より 第3楽章

2/22(金) ジャパン・ギター・カルテット
D.ミヨー(野平一郎 編):《スラム・シュ》op.165bより《Vif》
G.ビゼー(W.カインガイザー 編):歌劇《カルメン》より《間奏曲》

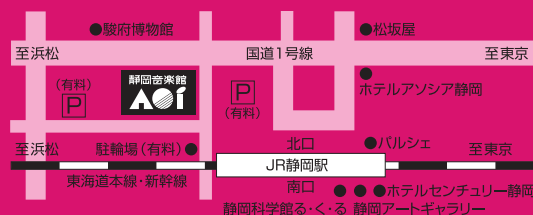
静岡音楽館倶楽部法人会員(2008年2月末日現在)

かわした歯科クリニック/コカ・コーラ セントラル ジャパン(株)静岡支店
(株)サンタモンコーポレーション/静岡ガス(株)音楽部
静岡ターミナルホテル(株)/鍼灸・指圧 六番町めぐすい/(株)タミヤ
(株)竹酔/三菱電機(株)静岡製作所(50音順)

特別協賛

静岡信用金庫 TOKAI スター精密株式会社

……………わたしたちは静岡音楽館AOI「コンサートシリーズ」を応援しています。……………



CONCERT HALL SHIZUOKA
ここに響く
静岡音楽館 AOI
お問合せ…☎(054) 251-2200

9:00~21:30(近い時間でもチケットをお求めいただけます)
月曜日休館(ただし祝日開館、翌日休館)・年末年始休館日12/28~1/4
〒420-8691 静岡市葵区黒金町1番地の9
E-mail: info@aol.shizuoka-city.or.jp URL: http://www.aol.shizuoka-city.or.jp